



# Weekly Market Report

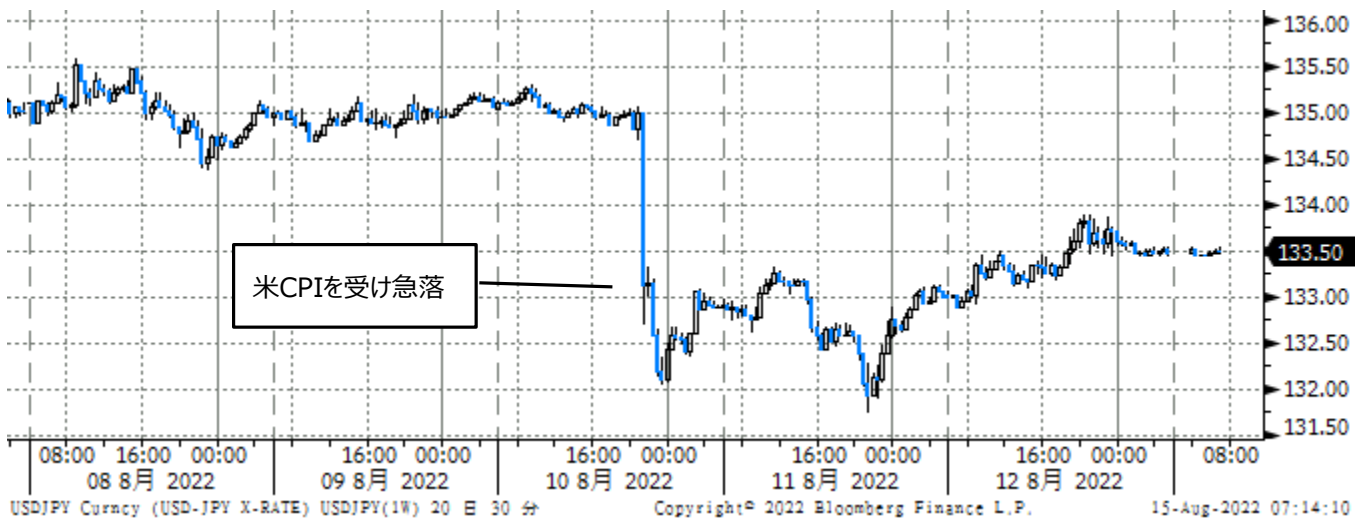
Aug 15, 2022

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

米CPIを受け急落。今週は材料不足感からもみ合いか。

### USD/JPY (1週間の値動き)



### コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場はドル売りが優勢の展開。週初は前週末の良好な米雇用統計を背景に135円台前半での底堅い展開が続いたが、週中に注目されていた米CPIが+8.5%（予想：+8.7%）、コア指数は+0.3%（予想：+0.5%）と予想比下振れの結果となったことを受けてドル円は一気に2円近く急落。その後も軟調に推移し一時132円近辺まで下落するも、FRB高官によるタカ派発言、日経平均株価の高値推移、更には米金利上昇を材料に週後半にかけてはもみ合いながら133円台まで回復、133円台半ばでの越週となった。

先週、重要イベントを通過し材料不足感が拭えず今週は動意の乏しい展開か。ただ、複数のFRB高官の発言が予定されている為、一貫してタカ派発言がなされるようであればドル買い圧力に繋がりがやすく内容には注目したい。（市場商品部/CDG）

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
8/15(月)	(日本) 4-6月期GDP	2.6%
8/17(水)	(米国) 7月小売売上高	0.1%
8/17(水)	(米国) FOMC議事録	
8/18(木)	(欧州) 7月HICP	8.9%
8/18(木)	(米国) 7月中古住宅販売件数	490万件

### USD/JPY (5年間)



### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

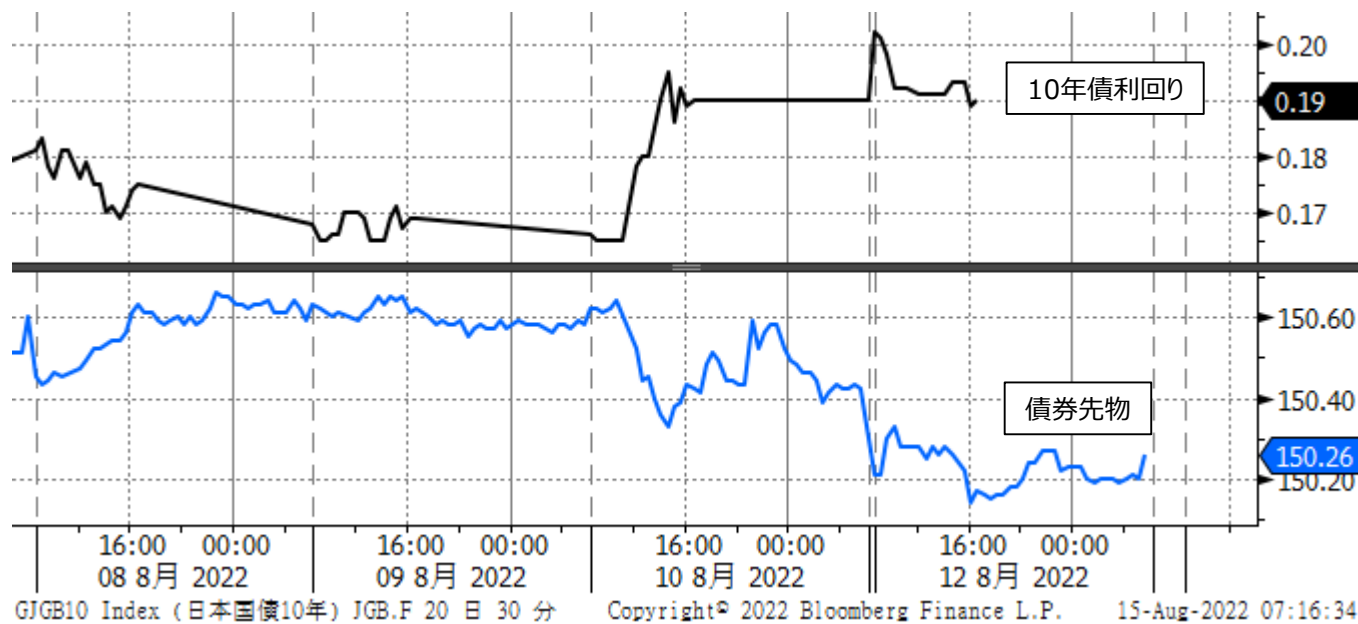
(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
下出康平	130.50 – 134.50	先週の米CPIの結果を受け景気後退懸念が強まるかに注目。今週の消費関連指標が低調となれば更なるドル安進行も。
三原大希	132.00 – 135.50	FOMC議事要旨に注目。足元インフレ懸念が後退している中、次回75bp利上げの見通しが強くなれば再び上値を試すか。

## 2. 円金利相場概況

機関投資家による円債需要の高まりが期待される中、円金利の上昇余地は限定的か

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

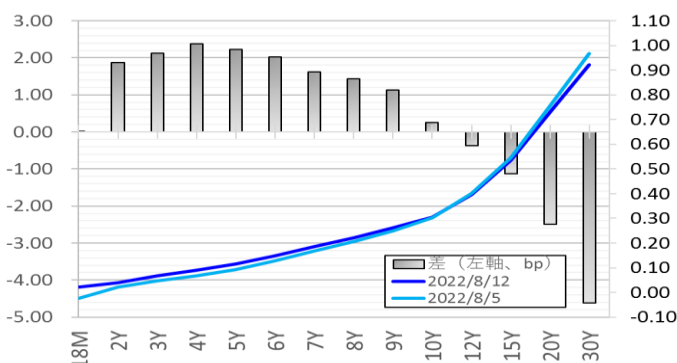


### コメント

先週の10年国債金利は0.165%から0.205%のレンジで推移。週初は前週末の強い米雇用統計を受けた米金利上昇の流れの中で10年国債金利は0.18%近辺からの開始となったが、米金利が低下に転じると0.16%台まで下落。火曜日に行われた30年国債入札については、平均落札金利1.119%、最高落札金利1.127%であったが、応札倍率が2.95倍と10か月振りの低水準となるやや軟調な結果となった。機関投資家による超長期債の買い需要はあったものの、事前に金利低下が進んでいたことが弱い応札につながったとみられる。水曜日には米CPIの発表を控えたポジション調整で10年国債金利は0.19%台まで上昇。米CPIは予想を下回る結果だったものの、FRB高官からのタカ派発言もあったことから米金利は上昇し、10年国債金利も一時0.20%台まで上昇する展開となった。今週の10年国債金利もレンジ推移か。国内生保が海外債券を大幅に売り越していたことから円債への需要が高まると思惑もあり、円金利の上昇余地は限定的とみられる。今週は火曜日に5年国債、木曜日に20年国債の入札が予定されている。（チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我）

### 金利スワップ変化（1週間）

(%)



### 10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
正村光太郎	0.15% - 0.22%	火曜日5年債・木曜日20年債の入札、水曜日のFOMC議事録などに注意しつつも、方向感はいくくレンジでの推移を予想。
伊豆浦有里恵	0.16% - 0.23%	FRBのインフレ警戒姿勢変わらずリセッション懸念煽る中、利回り上昇時には押し目買いが想定され債券相場は底堅く推移すると予想。

### 3. 今週のトピックス カナダドル相場動向

#### カナダ中銀による政策金利の引き上げとカナダドル動向

#### 資源価格の高騰とカナダ経済動向

2月下旬、ロシア軍によるウクライナ侵攻が引き起こされた。これに対し、欧米諸国が講じた対ロ経済制裁として、対ロ貿易の縮小が行われた。ロシアは世界有数の資源輸出国でもあったことから原油（WTI）、天然ガス（TTF）といった資源価格が高騰した（図1参照）。資源輸出国であるカナダにおいても、その影響は非常に大きく、輸出商品の価格が高騰したことによって、貿易収支も5月貿易収支+5.32B（前年2.17B）、6月貿易収支5.05B（前年4.77B）と高水準を維持している。一方で中国のロックダウンによる半導体不足の影響等で、7月PMIの結果（49.6）は予想（60.3）を大きく下回り、事業環境の悪化を示す、50.0を下回る結果となった。GDPでは4月GDP前月比0.3%、5月GDP前月比0.0%となっており、全体として見た時には、資源高の影響は、中国のロックダウンによる影響による製造業の業績悪化によって、打ち消される結果となった。

#### 7月BOC金融政策決定会合の概要

7月13日に行われたカナダ中銀（以下BOC）の金融政策決定会合では、政策金利を1.5%⇒2.5%に引き上げることが決定された。BOCによる政策金利の引き上げは、今年3月から行われており、前回BOC（6/1）での利上げは1.0%⇒1.5%と50bpの利上げ幅に留まっていた。従前の市場の予想では利上げ幅は75bpとの見方が強く、今回の利上げ幅が100bpであったことは市場にインパクトを与えた。マクレム総裁は今回の利上げに対し、「インフレ率が極めて高く（図2参照）、また高インフレが定着するとの懸念が広がっている。我々はこれを容認することはできない」と述べた。また今後の方針についても、「政策金利を中立金利のレンジ上限（3%）か、それをわずかに上回る水準まで速やかに引き上げる」としており、今後のBOCにおいて更なる利上げの可能性があるということを示した。

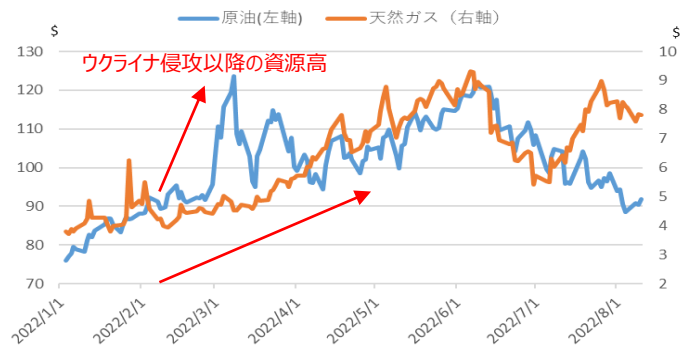
#### カナダドル動向

カナダは上述の通り、3月以降継続的に利上げを実施しており、それ以降日本との金融政策の違いが意識され、右肩上がりにカナダドル高円安に推移している。一方で対米ドルでは、両者とも利上げを積極的に行っており、金融政策を巡ってカナダドルと米ドルで一進一退が続いている。（図3参照）

また今後の動向としては①ロシア・ウクライナ間の戦争は長期の様相を見せたこと、②8/3に行われたOPEC+においても原油の大幅な増産には至っていないこと、①、②から原油高は継続し、カナダドルは対円、対米ドルにて堅調な推移が見込まれる。一方で懸念すべき事項として、米国のリセッションの可能性だ。カナダの最大輸出国であるアメリカが景気後退となれば、カナダ経済にも悪影響が出るのが想起される。また中国でのコロナウイルスへの対応次第では、経済活動の停滞によるエネルギー価格の後退が考えられ、引き続き警戒が必要となる。

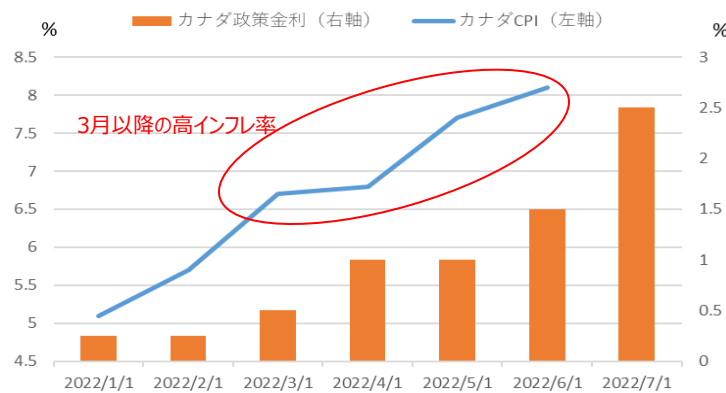
（市場営業部/三原）

【図1】原油価格、天然ガス価格の推移



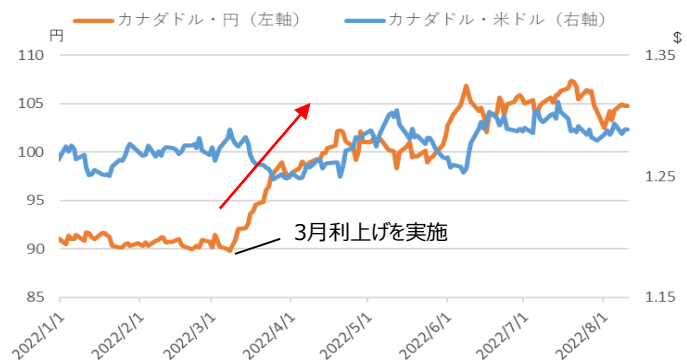
（出所：Bloomberg）

【図2】カナダCPI推移



（出所：Bloomberg）

【図3】対円、対米ドル推移



（出所：Bloomberg）

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会